

豊かな自然と文化が息づく町東浦町。
この町は徳川家康の生母「於大の方」の
生まれた地として知られています。

歴史散策路「於大のみち」は
「生い立ち広場」から乾坤院（於大の生家、水野家の菩提寺）
まで、明徳寺川の両岸約二キロ……。
沿道には約四百本の八重桜などが植えられ、
於大の方が着用した夜着をモチーフにしたモニュメントなど
三ヶ所に設置。
また左岸には於大の方物語、
右岸には東浦町の歴史を記した陶板六十四枚が敷かれています……。

「於大の方物語」(左岸)

① 一五二八年
（享禄元年）於大一歳
第四代緒川城主水野忠
政の娘として生まれる。
母は華陽院於富の方と
いうきれいなお方でした。

② 一五三二年
（天文元年）五歳
三河のほとんども我が
ものにした岡崎城主松
平清康から求婚された
母於富は、忠政に離縁
されて清康と再婚しま
した。

③ 一五三三年
（天文二年）六歳
忠政は西三河へ勢力を
伸ばそうと考え、緒川
の対岸刈谷に立派な城
を築いてここを水野氏
の本拠地とし、家臣団
とともに移りました。

④ 一五三八年
（天文七年）十一歳
緒川を去って刈谷城に
移った於大は、水野貞
守をはじめ祖先の墓が
ある乾坤院へ、土地を
永代寄進しました。

⑤ 一五四一年
（天文十年）十四歳
清康の跡を継いだ岡崎
の松平広忠は駿府の今
川氏に属し、緒川刈谷
城主水野忠政と結ぼう
と考え、於大は十六歳
の広忠へ嫁ぎました。

⑥ 一五四二年
（天文十一年）十五歳
母於富も岡崎に嫁いで
おり、母子とも政略に
利用されたのですが、
この年十二月二十六日
於大は玉のような竹千
代（家康）を生みました。

⑦ 一五四三年
（天文十二年）十六歳
幸福の日々は短く、父
忠政が病死し相続した
兄信元は四方の情勢を
みて今川・松平氏を敵
とし、尾張の織田信秀
と手を結んでしまいま
した。

⑧ 一五四四年
（天文十三年）十七歳
広忠は敵方の妹を妻と
しておけず、今川氏に
気兼ねして於大を離縁
しました。於大は三歳
の竹千代を残して刈谷
へ帰されたのです。

⑨ 一五四六年
（天文十五年）十九歳
於大は残してきた竹千
代を思いながら刈谷城
外の権ノ木屋敷に住み
刈谷初厳寺で佛門に入
り手持ち品を納め、乾
坤院や善導寺へも度々
参詣しました。

⑩ 一五四七年
（天文十六年）二十歳
岡崎では織田の大軍乱
入に耐え切れず、今川
氏に援助を頼みました。
義元は受諾すると引き
かえに竹千代を人質と
して求めました。

⑪ 天文十六年の八月、竹
千代は今川の人質とし
て駿府へ行く途中、田
原の戸田氏に奪われて
織田信秀のもとへ送ら
れました。この春、阿
久比の久松俊勝へ再婚
した於大は大決心をい
ためました。

⑫ 熱田の加藤図書助屋敷
で暮らす竹千代のもとへ、
於大は折々のお菓子や
手縫いの着物に心のこ
もる手紙をそえて励ま
し続けました。また阿
弥陀経を血書して毎日
無事を祈りました。

⑬ 一五五二年
（天文二十二年）二十五歳
於大は阿久比で長男久
松康元を生みました。
また緒川は生まれた所
であり善導寺へよく参
詣して三尊来迎の像と
佛供田を寄進しました。

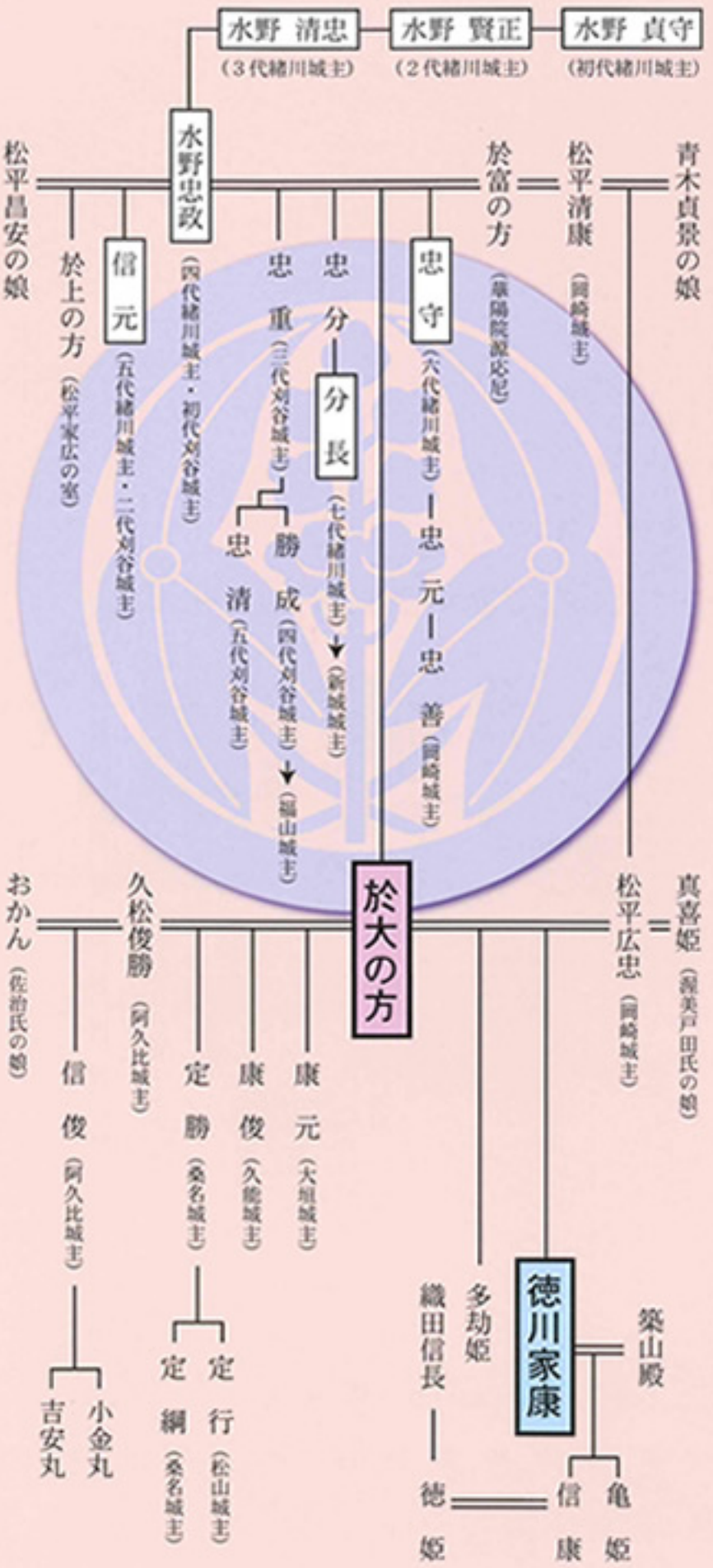
⑭ 駿府へ移った竹千代のも
とへ於大は絶えることな
く使いをよこして励まし
たり、於大から今川義元
に頼んで母源次郎（於富）
が竹千代の養育に当た
ることができるよう
はからいました。

⑮ 一五四九年
（天文十八年）二十二歳
三月に広忠が家臣に殺
されました。一方今川
軍は安祥城を取り返し
城主織田信広と竹千代
の人質を交換すること
になりました。

於大の方生い立ちのイメージ彫刻 (生い立ち広場)



於大の方と水野家の関係者系図



宇宙山乾坤院
初代緒川城主水野家貞守が、文明7年緒川城とともに水野氏の菩提寺として建立した寺です。

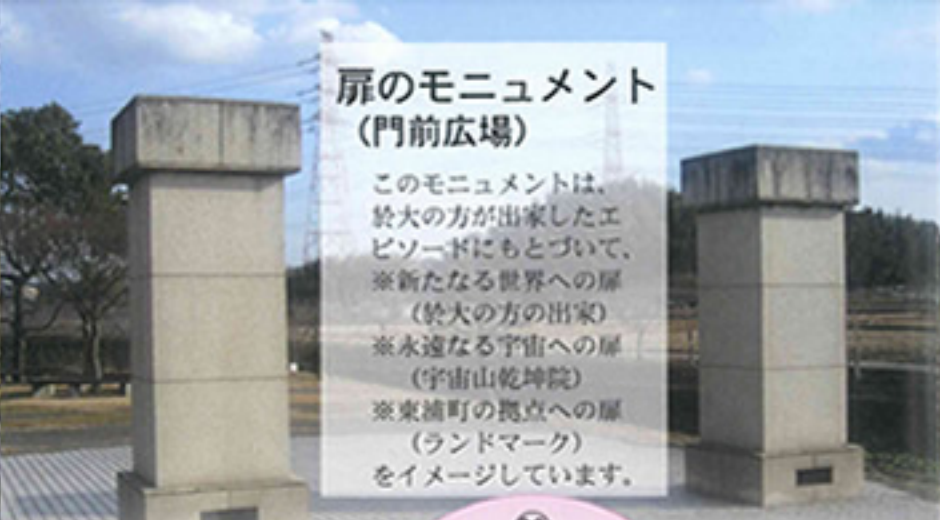
32 於大の尊称は京都知恩院で宮まれ、遺骸は江戸へ移され小石川の傳通院に葬られました。位牌は緒川善導寺と乾坤院にも安置されています。

28 一五九〇年 (天正十八年) 六十三歳 家康は関東六か国へ移され一族と共に江戸城へ入り、於大と俊勝との長男康元は下総関宿城主、三男定勝は下総小南城主となりました。

31 慶長七年七月に発病した於大は、家康らに見取られながら「日本一の幸福な母」として、八月二十八日七十五年の生涯を閉じました。「傳通院殿善光佐智智香大禪定尼」と号します。

29 一五九四年 (文禄三年) 六十七歳 於大は永禄三年に駿府で亡くなった母兼陽院の姿と自分の姿を一对のものとして絵師に描かせ、鏡の御影として刈谷坊殿寺へ納めました。

30 一六〇二年 (慶長七年) 七十五歳 於大は長男康元、三男の子松山城主定行に伴われて伏見城の家康を訪ね、後陽成天皇に拝謁高台院を訪ね豊国神社を参拝しました。



扉のモニュメント (門前広場)
このモニュメントは、於大の方が出たエピソードにもとづいて、新たな世界への扉 (於大の方の出家) ※永遠なる宇宙への扉 (宇宙山乾坤院) ※東浦町の拠点への扉 (ランドマーク) をイメージしています。

26 一五八七年 (天正十五年) 六十歳 蒲郡上郷城主で岡崎城主の留守を預かっていた夫久松俊勝が亡くなりました。遺骨は蒲郡の安楽寺と阿久比の洞雲院へ葬りました。

27 一五八八年 (天正十六年) 六十一歳 於大は夫俊勝の眠る蒲郡安楽寺の寿慶上人により薙髮式を行って尼となり、傳通院といわれるようになります。

25 一五八七年 佐久間を遊牧した信長は、緒川刈谷城主であった信元に罪のなかつたことがわかり、信元の弟忠重を刈谷城主に、忠守を緒川城主に復帰させ、水野氏と緒川の関係が戻りました。

24 一五八〇年 (天正八年) 五十三歳 信長は長年の大阪石山本願寺攻めを効命によって和議しましたが、この戦いの総大将佐久間信盛の意図を賣めて高野山へ追放しました。

23 一五七九年 (天正七年) 五十二歳 家康の妻築山殿と長男信康も武田に通じているとして信長の命令で殺され、於大にとって嫁や孫にも害が及ぶ悲しい日々となりました。

22 こうした中でひとり信元の子利勝は三歳の幼子であったので、乳母の手で岡崎に連れ土井家の養子としてかくまわれました。これが三代将軍家光の守役、徳川幕府の大老となった土井利勝です。

21 信元の子によって長男元茂も、於大の義子やその子も殺され、緒川刈谷の所領はすべて佐久間の手に渡り、水野一族は分散。緒川にとって無残な時代となったのです。



時を刻むモニュメント (再会広場)
再会広場の中央には、「時の流れ・歴史の流れ・人の流れ」を感じさせるような時を刻む日時計の広場があり、この広場全体をモニュメントとしています。中央の石像は、母性の象徴としての女性像をイメージしており、その下には、「再会する石」を設置。これは於大の方と家康が秘かに再会したエピソードをもとに、石像の空穴を太陽の光が通り抜け、広場に記されているこの「再会する石」と重なるようになります。

16 一五五四年 (天文三年) 二十七歳 今川軍の村木勢を信元と信長連合軍が攻略。一五五七年 (弘治三年) 三十歳 兄信元と子の元康(家康)が石ヶ瀬で合戦。

18 同年五月十九日信長の奇襲作戦で今川義元は討死し、大高城の元康は孤立しました。これを助けたのは緒川の信元で、急いで家康に案内をさせたので元康は無事岡崎へ帰ることができました。

17 一五六〇年 (永禄三年) 三十三歳 桶狭間合戦二日前の五月十七日、今川軍の先鋒隊元康は知立から敵方の阿久比へ馬を駆け、母於大と十七年ぶりの涙の再会を果たしました。

19 一五六二年 (永禄五年) 三十五歳 今川亡きあと信元が仲介して、織田信長と松平元康が清洲城で同盟を結びました。この年夫久松俊勝が蒲郡上郷城主となりました。

